'98 7月号 No. 549

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2180回★★ 全日本登山大会 北海道と 斜里岳，雌阿寒岳	7月10日（金） ～16日（木） 6:00（6:15のバスに乗車） 京都八条口空港バス乗場	大倉寛治郎 （内4611） （外462－4332）	
第2181回★★ 比婆の山々	7月20日（月） ～21日（火） 6:00　七条大宮集合	三橋　勉 （自宅581－3562）	京都南I.C.－三次I.C.－口和町…八国見山－鮎の里（泊）…釜峰山…吾妻山
マイカー山行です。参加希望者は担当まで。			
第2182回★ 袴ケ腰	7月27日(月) 6:30　山科外環 京都銀行北	河村　清 （自宅581－5828）	京都東I.C.－関ヶ原I.C.－藤原町…藤原岳…袴ケ腰（1,009m）
マイカー山行です。参加希望者は担当まで。			
第2183回★★★ 夏山登山 穂高連峰縦走	7月29日（水） ～8月2日（日）	山岡　昭弘 （内796）	費用　約55,000円 申込み締切り 7月10日

29日　京都－新穂高温泉…白樺平…西穂高口…西穂山荘（泊）

30日　西穂山荘…西穂独標…西穂高岳…穂高岳山荘（泊）

31日　穂高岳山荘…北穂高岳…大キレット…南岳…槍ケ岳山荘（泊）

1日　槍ケ岳山荘…槍ケ岳…槍ケ岳山荘…槍平小屋…滝谷出合…新穂高温泉（泊）

2日　新穂高温泉－松本I.C.－京都東I.C.－京都

今月の集会

日　時　　7月9日（木）18：30

場　所　　厚生会館　4F　大教室

企画運営委員会

日　時　　7月21日（火）18：30

場　所　　厚生会館　4F　大教室

5月30日は“ゴミゼロの日”ということになって，京都市あげて街のゴミ清掃をした。そして6月は環境美化月間ということで，クリーンアップ作戦と銘うった美化運動を展開している。京都府山岳連盟も従来秋にやっていた清掃登山を6月14日に一斉に行うこととし，京都市交通局山岳部はいつものように天王山の清掃を担当したが，本格的な梅雨のシーズンとなり，雨中のゴミひろいとなった。これからは毎年6月にやることになりそうで，雨の日が多くなりそうであり悩ましいことではある。

天王山の清掃のあと，初代部長の近藤薫氏のお宅で，山岳部創立50周年記念誌に掲載するための座談会を行った。近藤氏は明治44年生まれで87歳である。山岳部は昭和24年に氏が創部されたが，その年は小生の生まれた年でもある。創部当初の興味深い話をいろいろと聞かせていただいた。その中で何といっても昭和30年代が山岳部の黄金時代であったようである。冬季の台高山脈初縦走を成し遂げたのもその頃である。交通局も昭和30年代は黄金時代であった。初期の山岳部報も見せていただいた。紙は古ぼけて茶色に変色していたが，ガリ版刷りの青いインキは鮮やかに臭いまで残っていそうであった。

山岳部の勢いのよい頃の話を聞かせていただいて，50周年を来年に控えた今の状況をみると，いささか寂しい思いを禁じ得ない。日本の経済状況も悪いし，交通局の経営状況も悪い。趣味が多様化している時代で，職域山岳会の活動が沈滞している中で，京交山岳部はまだ頑張っているほうではないかという声もある。それはおそらく過去の遺産にしがみついているだけのことであると思う。山は昔と変わらぬ姿でそこにあるが，山に登る人間の思いだけが変わっていくようである。

インドとパキスタンが核実験を行った。アメリカ，ロシア，中国，イギリス，フランスの5ケ国による核管理体制にほころびが生じ，これから核兵器を所有する国がますます増えそうである。民族や宗教の争いが激化する中で，核兵器が使用されないという保証はどこにもない。地下核実験で山の形まで変えてしまう兵器である。背筋が寒くなるような話である。国と国との戦いといえば，サッカーのワールドカップが始まったが，こちらの戦いは平和的でよい。夢と希望を与えてくれる戦いである。

（H. 10. 6. 16.　記. S. I.）

【第２１７３回例会】

サイクル登山　海　南　の　山

三　橋　　勉

6時出発　雨天で14日に変更したため，津田さんが来られず伊藤，河村の両先輩と小生の３名で名神近畿阪和自動車道を経由して，２時間あまりで海南ＩＣにやってきた。

8時10分　熊野古道の99社あるうちの第１番である藤白王子社から塔下王子社へ越える地蔵峰寺に到着。この峠は，標高260ｍで北に海南港から和歌山方面が望める展望台で地蔵峰寺には，等身大の大きな石仏のお地蔵様が祀ってあった。

8時30分　峠を少し戻り，西の方向に６キロほどミカン畑の山道のドライブウェーを走る。

9時すぎ　熊尾寺山の取り付き点を通り過ぎて，ゴルフ場の見える立派な広い道路に出た。

9時35分　もと来た道を戻り地元の人に道を聞き，次の目的地の鏡石山の登山口に到着。

9時40分　作業小屋の裏手から，町境尾根の標高のある切り開かれた小道を登って行く。

10時　　本日の最高点である標高555ｍの四等三角点，鏡石山に到着。明るい草原の広場の頂上から東には，大きなボリュウムのある生石高原が，北には町境尾根の稜線の鯉ノ峰に続く。さきほど登り損ねた熊尾寺山が見え，西には加茂川にかかる海南湯浅道路のアーチ型の橋がよく見えた。

10時半　　最初に登る予定であった熊尾寺山まで，町境尾根の稜線伝いに道があるようなので，二人と別れて，途中の西光寺越えで11時に落ち合うよう約して，小生は車を回すべくもと来た道を下山した。

11時　　西光寺越えの近くに駐車，取り付き点が解らないので，近くの農園で道を聞き，送電線の巡視路の標識が入り口であると教えていただく。そこから10分程入って行くと送電線の鉄塔下に出た。この辺りが西光寺越えであろうと思いながら，あたりに人の気配がないので，南の方向に少し進んだがクモの巣が張っていたので，まだここへは来ていないと判断して引き返した。

11時10分　車止めまで戻ると笛の音が聞こえて来て，ヤットコサ合流できた。鯉ノ峰の手前から車道に降りてしまって，かなり遠回りをしたので時間がかかったらしい。

11時30分　巡視路の標識から西光寺越えで右に登って行くと，やがて二等三角点543ｍに到着。展望のない陰気な所なので早々に引き返し，西光寺越えの明るい鉄塔の下で昼食とした。

13時　　約1時間のんびりとランチタイムの休憩をとり，次の目的地に向かった。

13時半　ひとつ手前の道を右折してしまったので，興という所まで降りてしまって登り返して通りがかりの人に道を尋ねて，笠畑を越え百垣内（モモガイト）へ行きバックして，大窪の別れ道で，念仏岩の登山口を尋ねているとトラックで通りがかった人が，わたしに付いて来なさいと案内して貰って，先程間違えた百垣内の分岐の先からミカン畑へ行く道を登って行くとヘアピンカーブの所に駐車し，竹やぶの小道を入って行き，伐採されたところで，「ここを登って稜線を右に登って行くと三角点がある」と親切に教えて戴く。

14時50分　教えられた通り，伐採跡を登り稜線を右に登って行くと大きな岩があり，付近を探すとまさしく三等三角点405.3mがあった。

15時30分　下津町をぐるりと一周して，西方向にある最後の山へ向かうべく小原峠に行く。

16時08分　小原峠らしいところが分からず，送電線の巡視路から入り登って行くと鉄塔の下に出てそこから高いところをめざし，町境を越えて有田市にある明神山へ登って行った。

17時　　本日の山行きで一番分かりにくい道のないルートを採ったようで，頂上付近を行きつ戻りつしてさがし回り，ヤットコサでササヤブの中に明神山一等三角点355.3mを見つけることができた。早速付近の笹を刈り込み，広場を作りバンザイ三唱した。反対側から切り開きの道があり，こちらから登って来ているようであった。

19時　　紀西線沿いの国道42号線に出て，一等から四等までのサイクル登山を無事登り終えた満足感に浸りながら，本日のほどよい疲れの中帰途に就いた。

【第２１７４回例会】

春のハイキング

音　羽　山　（△593.4m）

井　戸　澄　夫

新緑の燃える季節となり，近郊の山歩きが楽しい季節でもある。しかし，毎年，夏の来るのが早くなり，5月中旬というのにすでに梅雨入りしたような天気である。

9:00　京津線大谷駅で総勢25人が集合した。昨年10月12日の地下鉄東西線の開業と同時に，京津線は4両編成の新しい車両となり，御陵駅から東西線に乗り入れ市役所前駅まで行くことになった。

蝉丸神社の石段から登山道が始まる。ここは蝉丸法師の“これやこの行くも帰るも別れては知るも知らぬも逢坂の関”の歌で知られる逢坂の関の跡である。

音羽山への道は東海自然歩道になっており，幅も広く整備がいきとどいている。ただ急坂なので石段になっている部分が多く，40分ほどはたいへんしんどい思いをする急登である。ＮＴＴの鉄塔あたりまでくるとほぼ登りは終わり，平坦な遊歩道となる。雨がシトシト来ていたが，緑のトンネルで防がれて雨具も必要ない。

音羽山頂は三等三角点で，四方が開けて琵琶湖もよく見えるはずだが，雨と風が激しくなり，展望を楽しむひまもなく，早々に林の中にある案内板の前の小広場にひっこんで，昼食とする。ソーメンを大量に作って，若い人達の力をかりて，ビール・氷とともに荷上げしたが，雨はますますきつくなり，カッパを着てカサをさしての，立ったままでの食事となった。山ではよくあることとはいえ，まことに残念である。

晴れていれば音羽山から石山寺や醍醐，牛尾観音など多くのコースをとれるところであるが，雨で興をそがれ，大半がもと来た道を戻ろうということになった。ＮＴＴの鉄塔からは，傾斜のゆるい巡視路を下った。少し下ると雨はなくなり，どうやら山頂のみ大雨であったようである。

【コースタイム】

大谷駅 9:00 … NTT 電波塔 9:50 … 10:30 山頂（昼食）11:20 … 12:30 大谷

【参加者】

三橋　勉，　津田　実，　森本清一Ｆ１，　竹田　勉Ｆ１，　清水康弘，　堀田　剛，
松浦健一，馬淵拓巳，　原田加津子，　鷲見壽末子，　井戸澄夫Ｆ１，山岡昭弘，
部員外 10名，　合計 25名

念願の大峯奥駈

坂井久光

京都山の会の山崎大造氏より兼ねてより大峯奥駈の計画があり，お誘いに預り5月22日夕方より26日かけて，行者還トンネル西口より行仙岳の佐田辻経由浦向を縦走して完結した。

22日21時大久保駅出発。参加者は山の会の児玉さんと三人で23時頃上北山村河合に到着。河原にテントを張り24時頃就寝。

23日6時頃起床して朝食後天ケ瀬から行者還林道（国道）を天ケ瀬川の支流ナンゴウ谷沿いに走り谷奥から右岸から左岸に渡り羊腸の急坂を登りきりトンネルを越し西口で駐車。

先に河合にバイクを駐車して来たので，帰りはバイクで戻る計画である。此所は川迫川の源流小坪谷の源頭に当り昭和30年頃，御勢久左門理博（当時五条高教諭）と岩魚の南限を探しに途中迄遡行し釣上った懐かしい所だ。

沢山の車が駐車してあり弥山登山の基地となり山腹から清水が湧出していた。谷間に梓や姫シャラやブナ・トチ等が多く清冽な渓水が流れ橋を渡り谷をつめ急坂を登って稜線に出て吉野〜山上ケ岳の縦走路と合した。付近は白ヤシオツツジの大木が多く沢山咲いていた。此の道は昭和46年5月17日故盛田さんと吉野から縦走した懐かしい道で，当時に比べて道は整備されていた。弁天の森1,600m三等三角点の手前で「坂井さん」と呼ばれ，見れば私の渓流釣弟子第一号の翠渓（山県忍十二支会員，元一等三角点会員）でこんな所で会うとは吃驚した。聖宝宿趾理源大師像で一休して急坂を登り切ると称山小屋（新築）に着き，一休みして急坂を下りまた登ると八剣山1,915m二等三角点で数人の先客あり休んでいた。此所で昼食休憩し展望を充分に楽しみ，明星岳へ向かって出発。舟の峠を過ぎ揚枝の森の七面山の分岐付近は小梅藻草の群落があり，右手西側に舟の川の源頭迄林道が延びているのが眺められ，開発の波が此の地迄及んでいるのが感じられた。仏生ケ岳1,805m三等三角点は，山腹を巻いて下っているので，始めての二人は登頂へ。

体調が余り良くない小生は休んで待ち，次いで孔雀岳1,779mの独標付近で鳥の水の水場を見付け，平坦地を求めて本日の宿場としてツェルトを張り夕食後就寝。翌24日夜半から風がひどくゴアのツェルトの半側が濡れて顔に当たったりして目が覚め，夜露と思ったが4時頃雨風となり，一同装具をまとめて出発。前夜は夕焼けで雨の心配はなかったが山の天気はうつろい易い。雨具をつけて嶮岨な釈迦ケ岳への登りは楽ではなかった。痩尾根の孔雀覗・貝ずり・両部分の難所の上り下りがあり，千刃の谷を見下ろす岩壁や岩峰のバンドや乗越しがあり雨に煙る岩峰は白ヤシオが咲き乱れ水墨画の世界だった。途中枝道に迷いロスして釈迦ケ岳1,800m一等三角点の山頂釈迦の銅像が立つ小広場へ6時半頃登頂。小憩後緩やかな草や都笹の降路をひたすら下り深

仙の宿の山小屋へ7時過ぎ到着。早速火を炊き濡着を干して朝食後停滞を決め，山崎さんと携帯の将棋を楽しんだり菓子やコーヒを飲んだり食べたりした。近くに立派な行者堂があり信者が数人位いた。その内高校生の一人が入って来て火に当たったりして姫路からとのこと。その後山伏姿の男と登山者が入って来て「坂井さん」と呼ばれ吃驚した。彼は新宮山彦グループの小田と名乗り，昨秋白髯岳で一緒したし，天上山で1,500山登頂で祝酒の件も知っていると話し世間は狭いものとつくづく感じた。此の地は前鬼川と滝川の最低鞍部でS.36.8.24大沢氏と京山の田尻さんの三人で旭の川の迫から釈迦ケ岳へ登り前鬼の小仲坊へ一泊して帰ったことがあり，また故松浦勇次氏と前鬼川遡行して深仙の宿を越え滝川へ下り，花瀬の新興教団地を経て風屋に行きバスで帰ったこと等が懐かしく思出された。当時水場御香水は雫程度だったが今日は滝となって流れていた。

翌26日雨も上り一同快晴を祈って出発したが，曇から雨となり大日岳を越え太古の辻を経て石楠花の茂る石楠花岳を越えた頃から雨具をつけて次のピーク天狗岳1,537m三等三角点に登頂。一同万歳三唱後小憩後地蔵岳へ嫁越峠を通って登頂（9:55）。次いで般若岳を越えセクタワの剣光門・笹の宿跡（10:34）。涅槃岳1,375m三等三角点へ11:55登頂。昼食休憩後出発。証誠無扇岳1,301mを越え阿須迦理岳1,251mを越し持経の宿小屋に到着13:30～14:00。

立派な小屋で玉岡さんが維持管理に多大な苦労をかけておられ，途中登山路の整備にも山彦グループの皆様の努力の跡が偲ばれ，山伏や登山者の為に多大な貢献をされていることが実感出来，彼の姿が聖人に感じられた。

此の地は池郷川と芦廻瀬川の鞍部で林道が通じており東へ下れば池原で此の下流の滑川出合の山彦荘を昭和34年の春，故今西博士や御勢久左門理博と伊藤潤治先輩が二泊して焼失した事があり，それが私の一生に大きく影響して今日も元気で登山が出来ることになったと信じている。また小屋のノートに玉岡さんが二日程前に泊まっておられ，前述の中谷氏一行の記録があった。その後平湯の宿の小屋へいき立派な設備のある新築小屋に一泊。私と山崎さんは水場へ二分とある急坂を下って水汲みに行き，彼が15ℓのポリタンと2ℓの2本約20kgを一人でリュックに背負って登った。水場は谷底で水量豊富で断差の高い段道が整備してあった。まだ夕食には早かったが，早速火を炊き茶を作ったり，夕食の準備や濡物の干燥につとめ，また山崎さんと夕刻迄将棋を楽しんだ。

雨もやみ明日こそ快晴と祈り就寝。翌26日は野鳥の囀りで夜も明け朝を迎えた。30分で転法輪山1,281mとの標識を見て25分で二等三角点のある頂上で，展望良好，南紀の山々や台高，大峯の諸峰が行仙山も近くに眺められた。一休みして出発。すぐ近くの倶利迦羅岳1,252m峰が岩峰で聳えており，長い下りの末西側から岩間の急崖を鎖で登り山頂へ。次いで緩い上り下りを経てコルに下り少し登ると怒田（ヌタ）の宿跡で小広い野営地があり，そこから段々の急坂が続き無線塔の

立つ行仙岳1,227ｍの二等三角点へ。少時休んで行仙小屋へ。

此の小屋は玉岡氏が岳人や自治体各種団体から1,800万円の浄財を集め数年前に山彦グループの献身的奉仕で建てられたもので80人位泊れる広い小屋で燃料・毛布・水等が完備され佐田の辻に立っており水場は四ノ川へ10分下った峻谷にあり上り約30分位かかる。少時休んで昼食休憩後，浦向へ向かって下山。約2時間と書いてあったが，次の標柱では2時間半，その先の玉岡さんの指導標には3時間と書いてあり前方に高いピークもあり心配したが，道は山腹を巻いて緩い上り下りで東へ続いて杉林になって行き，所々道が判り難い所もあり標識・指導標に注意して下ったが，途中私が転んでねんざしたので，山崎さん・児玉さんが荷を負ってくれ，杖を作って山崎さんの後を追い水場の支谷に下り奥地川沿いに高巻にて下り浦向に出ると山崎さんは熊野からの魚屋から鮪刺身を肴にビールを橋上で飲んでいた。脚は山ビルに吸われ真赤で，「坂井さん靴を調べ」と云われよく見ると靴や靴下に十数匹の小さなヒルがくっついていて一匹だけが吸っていて大したことはなかった。16時頃のバスを待ち，河合に行き，温泉に入っている間に山崎さんはバイクで駐車地行者還へ。約1時間半後帰って山崎さんも入浴。露天風呂で1時半眠って疲労回復し8時頃出発。9:45頃八木駅に着き児玉さんを降ろし，一路京都へ。宇治着23時頃で，その夜は山崎邸で一夜泊めて頂いて翌27日帰宅したが，その時杖代わりにストックを借りてほうほうのていで帰った。

【個人山行】

聖岳から光岳

梅津　吉田　武

26日　標高880ｍから一気に3,000ｍの頂きについた。易老渡より林道を30分程歩くと便ケ島についた。便ケ島の小屋は壊されて今は駐車場しかない。登山道はここから西沢に沿って続いている。

便ケ島より西沢渡までの間は山ヒルの宝庫で足元で多くの山ヒルが首を上げている。西沢渡までは吸いつかれても仕方がないので，速足で歩いて西沢渡の野猿に乗って沢を渡る。足元を見ると山ヒルが五匹ついていた。ここから聖岳山頂まで2,000ｍ弱の苦しい登りである。易老渡を5時半に出て12時に薊畑の分岐についた。

ここから小聖岳を越してガレを一気に登ると3,013ｍの聖岳についた。生憎の天気でガスの中で展望はなかった。

京交山岳部部員各位

京交山岳部報７月号(No. 549)
京交山岳部企画運営委員会
(海外登山担当　大倉，山岡，松田)

京交山岳部５０周年記念事業　海外登山について

前略

まもなく梅雨が明けて夏本番，夏山の季節はもうすぐとなってまいりましたが，部員の皆様におかれましては，いかがお過ごしでございましょうか。

さて，３月の総会で提案させていただきました京交山岳部５０周年記念事業海外登山につきまして，下記のように案内させていただきます。

部員の皆様のご参加をお待ちしております。

なお，疑問点，詳細につきましては，担当まで，ご遠慮なくご連絡ください。

記

日　程　　平成１１年８月中旬～下旬（４泊５日）

行　先　　マレーシア　Mt.キナバル（4095.2m）

コース　　１日目　大阪→コタキナバル（泊）
２日目　コタキナバル→パークヘッドクォーター→ラパンラタ小屋（泊）
３日目　ラパンラタ小屋→ロウズピーク（4095.2m）→ラパンラタ小屋→
パークヘッドクォーター→ コタキナバル（泊）
４日目　コタキナバル観光（泊）
５日目　コタキナバル→大阪

費　用　　￥２５０,０００前後（その他諸費用が若干必要となります）

申　込　　担当（山岡 ;施設部電気課 822-9191 内線796）まで

締　切　　平成１０年７月３１日

備　考　　この登山は基本的にはパッケージツアーを使用します。（最小催行人数は１０名です）
登山内容は今年のものです。（詳細は来春春頃わかる予定です）
パスポート等の取得は各人にてお願いします。
部員以外の方（家族，友人等）の参加につきましては，事前に担当までご相談下さい。

キリトリ

申込書

フリガナ		性別	ローマ字名（パスポートと同じ名前）	生年月日
お名前			姓 / 名	１９　年　月　日 （　歳）
現住所	〒			(TEL　－　－　)
パスポート番号・発行日・有効期限			勤務先・電話番号	
				・TEL　－　－ （内線　）

27日　聖平小屋を5時半に出発，今日は快晴で南岳を越えて上河内岳に登ると富士山や，後方の赤石岳が勇姿を見せていた。茶臼岳を越して易老岳まで快適な稜線歩きで南アルプスは山が深いとつくづく思った。

光小屋まで10時間。小屋に荷物を置いて光岳を往復して小屋についたのが16時を回っていた。今日も小屋は貸切であった。

28日　今日も快晴，光小屋を後に易老岳まで2時間。ここから一気に1,500mの下りでぐんぐんと高度を下げた。倒木の多いコースで南アルプスらしさを出していた。

光小屋を出発して5時間半で易老渡についた。遠山川で体を洗ってその日に京都に帰った。

【参加者】　吉田　武　他2名

【コースタイム】

易老渡 ～ 薊畑 ～ 聖岳 ～ 薊畑 ～ 聖平小屋
5:30　12:00　14:00　15:40　16:00

聖平小屋 ～ 易老岳 ～ 光小屋 ～ 光岳 ～ 光小屋
5:30　13:00　15:30　15:50　16:05

光小屋 ～ 易老分岐 ～ 面平 ～ 易老渡
5:15　7:30　9:30　10:40

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2173	サイクル登山 海南の山	(変更) 5月14日		三橋　勉	伊藤，河村	(別稿詳報)
2174	音羽山	5月24日		井戸　澄夫	三橋，津田， 森本，竹田，清水，堀田，松浦， 馬淵，原田，鷲見壽，山岡，他13名	(別稿詳報)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
長岡京市の最高峰	5月7日		伊藤　潤治	長岡京市の最高峰（京都西南部）。奥海印寺バス停から西山キャンプ場道をとり，キャンプ場道分岐で泉川林道に入りやがて破線路に変わったのをたどって，長岡京市と西京区との交界・436mに登った。伸び伸びとした美しい自然が一パイのおおらかな峰である。
アマワリ（村岡）	5月9日		伊藤　潤治	山陰線八鹿駅から八鹿町大字小佐字石堂に行くと，頂上は指さしてあの辺りだが，近頃は誰一人登ってないからと言って，いろいろ心配をして下さった。ご親切のおかげで二等三角点標高590mに登頂でき，美しいエビネランにも出会えたいい山，やさしい人たちの山であった。
岩間山	5月12日		伊藤　潤治 河村　清 他1名	岩間山と立木山（京都東南部）。岩間山を宇治市の最高峰だと思っていたが，宇治市によると最高峰は標高590mの無名峰があった。それはそれとして岩間山を訪ねてみた。標高は443mとあるが標石は地形図の如くありません。生い茂った頂上に見上げる高台へ，仏とも行者とも異なる奇妙な片ヒザ立ちの像が置かれていた。この正体不明は惜しい。つづいての立木山は観音巡礼道から入山して本堂に初詣。奥ノ院経由で三等三角点標高306mに登頂する。雨空のため展望なし。帰路は尾根を北行して往路の峠に出るコースを歩いてきた。すがすがしい下山だった。メンバーが好かった。河村清，幸枝夫妻であったから。

目　的　地	月　日	天候	参 加 者	記　　事
大峰奥駈	5月22日 ～26日		坂井　久光 他2名	（別稿詳報）
聖岳から光岳	5月26日 ～28日		吉田　　武 他2名	（別稿詳報）
日立の山 神峰山 598m （登頂 13:25） 高鈴山 623.3m （登頂 14:55）	6月8日	晴れ	伊藤　潤治 河村　　清 三橋　　勉	日立精錬所の大煙突の見える気象観測所の神峰山へは，本山トンネルの旧道トンネルの手前から，登山口があり約40分で頂上に到着し，日立市と鹿島灘が望めた。下り道で偶然四等三角点を見つけた。 ドライブ登山で頂上へ，高鈴山レーダー気象観測所があり，一等三角点の本点で天測点もあった。
吾国山 518.2m （登頂 8:55） 加波山 709.0m （登頂 10:12） 足尾山 627.5m （登頂 12:45）	6月9日	曇り		ＪＲ水戸線の笠間駅から南西8キロ，切り通しから登山口あり，直登コースと迂回コースあり，15分で一等三角点の頂上へ，そこから筑波山がガスの中に見えかくれしていた。 関東ふれ合いの道（水郷筑波国定公園）の天狗のお面のある加波山神社社務所から急なのぼり坂を15分タバコ神社へ，さらに登ること10分あまり三等三角点がお社の片隅にあった。この辺りは桧の植林があった。 加波山から南へ2キロで一本杉峠，このあたりには石切り場がある。さらに1キロ車止から15分の登りでお社（草履をくくりつけてあった）の足尾山（葦穂山）へ三等三角点の頂上には，山ぼうしと卯の花や山アジサイが咲いていた。

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
きのこ山 527.9m （登頂 12:50） 筑波山 男体山 870m （登頂 15:03） 女体山 875.9m （登頂 15:50）				さらに南西3キロ足らずで，道路わきの入った所に三等三角点があり，コナラ等の落葉樹が多くキノコの生育に適しているのでキノコ山という。 筑波山神社の境内からケーブルで登り終点から15分の急登で男体山御本殿へ到着。こちらは，ゆるやかな登りで「ガマノ油」売りで有名な大きな岩のガマ石を通り，女体山一等三角点本点が岩に埋めてあった。下山コースには巨岩があり，弁慶の七戻り等があった。

△△△ 例会予告

第２１８４回☆☆☆

朝日連峰縦走　　担当者 梅津　吉田　武

日　程　8月2日（日）夜行 ～ 8月6日（木）
費　用　60,000円
コース　8／2　寝台特急　日本海3号　20:51
8／3　鶴岡駅 ～ 泡滝ダム ～ 大鳥小屋（泊り）
8／4　大鳥小屋 ～ 以東岳 ～ 竜門小屋（泊り）
8／5　竜門小屋 ～ 大朝日岳 ～ 古寺鉱泉（泊り）
8／6　古寺鉱泉 ～ 左沢駅 ～ 山形駅 ～ 東京駅 ～ 京都

申込〆切　7／10まで担当者に
参加メンバーにて，ミーティングをします。

雑　　報

△△△　6月の集会

日　　時　　6月9日（火）18：30～
場　　所　　厚生会館　4階　大教室
参 加 者　　（本局）　大槻，井戸，松浦　（ＯＢ）　岡田，坂井，渡辺
　　（梅津）　吉田　（高速）　大倉　（市役所）　竹田　　以上9名
内　　容　　例会報告他

△△△　5月の企画運営委員会

日　　時　　5月21日（木）18：30～
場　　所　　厚生会館　4Ｆ　大教室
出 席 者　　井戸，山岡，馬淵

△△△　他山岳会の会報（受贈分）

6 月 号　　北山，山友，青嶺，木雞，近畿山行，京都山岳，趣味の登山，熊笹だより，わっぱ

△△△　部費の徴収について

平成10年度の部費を徴収しております。6,000円です。（O.B. 部員で部報郵送の方は7,500円です。）

各支部の会計委員さんが徴収にまいりますのでよろしくお願いします。

お詫びと訂正

印刷所の不手際により，部報6月号の9頁に不鮮明な部分がありましたので，下記のように訂正いたします。

を登り尾根へ沿って登って行くと小朝頭へ着いた。ここで一息入れる。1,120ｍのピーク（県境で鳥越峠からの分岐でもある踏み後は分からなかった）。せっかく登って来たのに約80ｍ程下りとなる。少し荒れてはいるが往路のことを思うと辛い。平坦となった頃「林道への道岳友タンス

平成10年７月１日現在

部　員　名　簿

１０９名

O　B

近藤　薫
森下村重
伊藤潤治
中村維源
牧　定夫
田中定勝
山村敏郎
石田和男
山下周道
坂井久光
河村　清
松岡伊太郎
津田　実
笈田　昭
横井襄二
竹井　章
村　宗松
辻　久雄
今井勇一郎
石田　弘
石川かず栄
森本清一
中山忠之
坂田利春
上島和彦
若山裕孝
鷲見壽末子
鷲見敏一
渡辺智生
木原　滋
古市昌造
三橋　勉

本　局

井戸澄夫
角田敏昭
徳野　治
田村正弘
室谷和彦
柳田　晃
江草哲史
長谷川雅也
宮川　勇
足立公弘
木下嘉造
松田誠二
山元誠一
山田富男
方山宗子
大槻雅弘
西尾直樹
関本俊雄
沢井佳三
川原傳治
原田加津子
伊豆蔵　清
出海洋三
立花雅彦
上島弘子
台川敦美
井上　豊
荒田又之助
上田　隆
国友　修
岡田茂久

佐々木敏雄
和田良一
大野滋久
広瀬光太郎
鎌田利雄
大杉雅晴
政　道代
平田嘉輝
馬淵拓巳
猪飼康夫
山岡昭弘
今道　力
井上一夫
清水康裕
山口雅直
堀田　剛
松浦健一
横田義一

高速竹田

篠田勝美
今井武夫

竹　田

大倉寛治郎
清水　明
田村忠司

高速醍醐

岡本　孝
伊知地文男
大切照男

梅　津

吉田　武
花岡弘武
阿部義夫

横大路

岡本義弘
田中　明

九　条

岡本　勇

錦　林

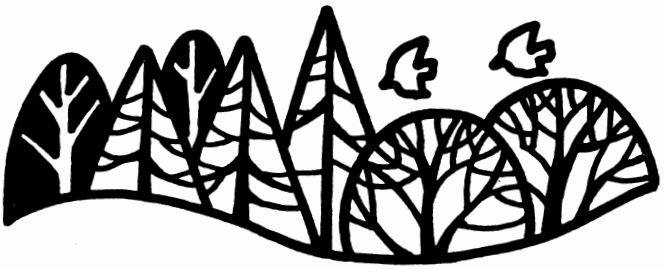
竹村芳広

洛　西

井口寿雄
谷口多加志
服部正義
牧野　健

市役所

北田貞雄
多田義人
佐伯康介
朝山勝人
岩野誠司
大塚孝之
小森　浩
竹田　勉
上村次男



家庭用品
衛生用品 } 総合卸商社

日華商事株式会社

本　店　京都市南区上鳥羽大物町13番地
〒601－8121　電話（075）672－6101㈹
FAX（075）661－7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町24番地の4
TEL（075）571－1108

帆　布・濾　布
テント・シート
雨　合　羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL　801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL　321－0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!

LODGE　株式会社ロッジ
営業時間　AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
TEL. 075 (222) 0363　FAX. 075 (223) 5256

葦の髄から天井を覗く…㊱

車検切れを機会に660ccから2000ccに車を乗り換えて、GSへ給油に行ったところ、従業員のサービスが全く違うのに驚いた。660ccの時は鼻にもかけない素っ気なさであったが、2000ccで乗りつけると二、三人が飛んで来て、ウインドウを拭くわ、灰皿の始末をするわ、挙句は缶ジュースのプレゼントまでついてきた。馬子にも衣装とはよく言ったものだ。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五－七九一－六一二五
（文責 波多野）

京都で唯一の山の専門店
Now Out door sports
ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US雑出品
ボーイスカウト用品
Mountain
〒604－0931 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)－0548
営業時間 AM10:00～PM8:00 無休(火曜定休)
(株) スポーツ コニシ

小林地図専門店
建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。
株式会社 小林地図専門店
〒600－8150 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る（3軒目北側）
☎(075) 351－6598㈹
地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町88
TEL（075）771－3442

平成10年7月1日
京都市中京区壬生坊城町48
京都市交通局内
京交山岳部